

せったん

第142号 2012年9月25日

発行 兵庫県保険医協会北摂・丹波支部
〒650-0024 神戸市中央区海岸通1-2-31
神戸フコク生命海岸通ビル5階
TEL078-393-1801 (代) FAX 078-393-1802

北摂・丹波支部



市民公開
企画

映画「ゴジラ」初代 上映会&学習会に52人が来場

挨拶をする
森下順彦支部長



司会を務める
福田俊明幹事

北摂・丹波支部では、8月5日に毎年恒例の市民公開の映画会と学習会を開催した。今年、1954年のビキニ環礁でのアメリカの水爆実験によって起こった第五福竜丸事件をもとに製作された映画「ゴジラ」を上映。学習会では、今なお続いていく放射能汚染の問題について、保険医協会環境・公害対策部の森岡芳雄部長が「本当のゴジラは見えない！ 忘れてはいけない放射能汚染のこれから」を



52人が参加
(三田市総合福祉保健センターにて)

テーマに講演した。

森岡先生は、原爆と原発事故による放射線被曝の違いや、原子炉災害による内部被曝の特性などについて解説した。

また、8月12日を期限に政府が実施していた「エネルギー・環境に関する選択肢」へのパブリックコメントの問題点を指摘するとともに、原発政策を見直すために、意見を主張することが重要と呼びかけた。

参加者からは、「古い映画ではあるが今新鮮で考えさせられました」「これからの原発依存の方向性について再考させられました」「内部被曝の影響についてよく理解できた」「何を選べば次世代の人に安心な世界になる

北摂・丹波支部は

9月1日、会員懇談会「医療機関で知っておきたい医療・福祉の役立つ制度」を三田市総合福祉保健センターで開催した。講師に神戸女子大学の阿江善春氏を招き、40人が参加した。参加者の感想文を紹介する。
(兵庫保険医新聞9月25日号に感想文掲載)



感想文 会員懇談会 患者さんのための制度を学ぶ



講師の阿江善春先生

日々医療に従事しておりますと、患者様より介護の問題、医療についての悩みを聞くこともあります。私自身制度についての知識が全くないため何のアドバイスもできず、申し訳なく思っていました。しかし、このたび懇談会で阿江先生より制度についてわかりやすく教えていただいたので、本当に勉強になりました。高齢化社会に向けて介護保険導入後、介護問題は改善されていたかのように思っていました。制度上の問題点、特に高齢者の介護と障害と生活問題が切り離されたような仕組みに、今回改めて矛盾を感じました。

全ての人が安心して医療を受け、暮らして行けるように支えてもらうべき制度が、こんなにも複雑で理解しにくく遠い存在なのか、納付に関し

てはしつかりもれなく徴収されるのに、給付となると自己責任ということが多い。高齢者や障害のある方には配慮がないと思いました。現状ではさまざまな問題で苦しい思いをされている方でも、制度自体を知らないのでは何十年も放置されているケースが多いと知りました。

せっかく国や自治体が立派な医療・福祉制度を作り上げてもらってより良く生かせる人たちが存在しなければ何の意味もなく、このままでは救われなれないと思います。今の私も患者様の力になれませんが、せめて相談窓口や対応していただけるところを紹介できればと思っています。

またこのような機会があれば参加して役立てたいと考えています。ありがとうございます。

【三田市・前橋内科循環器科病院
入江 真紀子】



40人が参加
(三田市総合福祉保健センターにて)



©1954 TOHO CO.,LTD

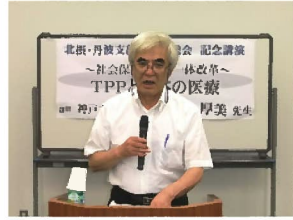
のか、マスコミに頼っているのは分らない」などの感想が多数寄せられた。

◆映画『ゴジラ』
製作：1954年 日本 時間：97分
製作：田中友幸 監督：本多猪四郎
特殊技術：円谷英二 原作：香山滋
19XX年、南太平洋で行なわれた核実験によって、ジュラ紀の肉食恐竜が甦った。ゴジラと名付けられたその怪物は、大戸島を襲った後、東京へと歩を進めていく。放射能をまき散らすゴジラの前に、帝都は為す術もなく蹂躪されるかのように思われた。だがその時、防衛軍に一つの朗報がもたらされた。それは若き天才科学者、芹沢の発明した“オキシジェン・デストロイヤー”という、核を凌ぐ超兵器の存在である。しかし芹沢は、核の二の舞を怖れ、その超兵器の使用を認めようとはしなかった……。戦争と核兵器への警鐘をテーマとしながらも、娯楽性の高い特撮映像が盛り込まれた作品。

感想文

支部総会

日本はどこへ進むべきか



講師の二宮厚美先生

北摂・丹波支部は7月21日、第24回支部総会を開催し、2011年度活動のまとめと2012年度活動方針を採択した。記念講演では「社会保障と税の一体改革、TPPと日本の医療」をテーマに、神戸大学名誉教授の二宮厚美先生が講演し、10人が参加した。参加者の感想文を紹介する。(兵庫保険医新聞9月5日号に感想文掲載)

現在、日本は閉塞した社会になっている。財政赤字をどうするべきか、増税をするべきか、社会保障はどうあるべきか。それぞれに対して対立した考え方がある。

原発、TPP、社会保障と税の一体改革においてどのような社会像を描き、どの方向へ行くべきかが問われている。あらためて、信頼できる勇気あるビジョンが求められている。

今回、オピニオンリーダーの一人である二宮先生より、新聞を見るだけではわかりにくい問題点を解説していただいた。

TPPに参加すれば、東北や北海道の農・漁業が危機的な状況におかれること、単なる貿易の自由化だけにとどまらず、

医療に代表される福祉制度や金融サービスに大きな影響があることを指摘された。

TPPはユーロ圏で起こっている強者が勝つという市場原理の制度であり、グローバル化に代表される規制緩和を一回行くと元に戻せない仕組みになっており、米国の利益に取り込まれ、日本独自のものは認められなくなり、今ある医療制度も改悪崩壊する危険もある。

南欧の危機によって起こった日本におけるポピュリズムと同じく、新自由主義の路線の持つ危うさも話された。

世界がどのような方向へ進もうとしているのか、また、日本がどのような社会に進むべきかを考えさせる講演だった。

【三田市・武中内科クリニック

武中 睦美】

幹事会のご案内

今回は10月11日(木) 午後7時~「大正庵」

どなたでもお気軽にご参加いただけます。参加希望の先生は、事務局(078-393-1801・1803 黒木・平井)までご連絡ください。



篠山市医師会事務所にて (9/11)

「篠山市の医療をよくする会」(北摂・丹波支部加入)は、9月11日に地域医療の問題で篠山市医師会と懇談した。懇談は、会が昨年市民対象に行った「地域医療に関するアンケート」の回答をもとにまとめた要望書を市に提出するのに先立ち、医師会の意見を求めて実現したもの。懇談には、会から石田宇則代表ほか4人(協会事務局1人)、医師会からは河合岳雄医師会長ほか8人が出席。要望書案に沿って意見が出され、「若い人が篠山にとどまらないことが看護師不足の大きな原因になっている。各医療機関で独自に院内保育所を設けるなど看護師確保に努めているが、特に運営が難しい病児保育については市で対応して欲しい」「高齢世帯や独居が増える中、交通手段がなく受診できない患者さんが増えている。市が運営するコミュニティバスは便数が少なく利用者も少ない。丹波市が実施しているオンデマンドタクシー(予約型乗合タクシー)のような予約制のものを導入して欲しい」などの意見が出された。会では意見を要望書に反映させ、近く酒井市長との懇談を要請する。

三田市
篠山市
丹波市

県立こども病院ポアアイ移転計画の見直しを
篠山市議会 委員会で趣旨採択

杉本支部幹事が発言

北摂・丹波支部が篠山市議会に提出していた「県立こども病院のポアアイ移転計画の見直しを求める意見書提出についての請願」が、9月11日の文教厚生常任委員会で審議され、賛成3、反対2の賛成多数で趣旨採択となった。

委員会の質疑応答では、請願人として出席した杉本健郎支部幹事が「重篤な心疾患や障害がある新生児はもとより、虫垂炎やヘルニアの場合の小児外科疾患も地域では対応せず、こども病院を受診、加療される。篠山市でも乳幼児の1割程度はこども病院を受診していると思われる。阪神・淡路大震災時に神戸中央市民病院が全く機能できなかったことを考えると、県下の小児医療の拠点となるこども病院が、人工島へ移転することの危険性は誰でも思

うことだ」と、篠山市の小児医療とこども病院の関係を具体的に説明し、請願採択を求めた。紹介議員は、木戸貞一(無職属)、前田えり子(共産)の両議員。

三田市議会は否決、
丹波市議会は継続

支部では同様の請願を三田市は6月議会、丹波市は9月議会に提出した。

三田では、6月21日の福祉文教常任委員会で審議され、森下順彦支部長が趣旨説明を行い、一旦継続審議となったが、9月4日の委員会で否決された。

丹波では、9月11日の民生常任委員会で審議されたが継続審議となっている。紹介議員は、三田市・長谷川美樹(共産)、丹波市・広瀬憲一(共産)各議員。

篠山市

篠山市の医療をよくする会

地域医療問題で 篠山市医師会と懇談

「篠山市の医療をよくする会」(北摂・丹波支部加入)は、9月11日に地域医療の問題で篠山市医師会と懇談した。懇談は、会が昨年市民対象に行った「地域医療に関するアンケート」の回答をもとにまとめた要望書を市に提出するのに先立ち、医師会の意見を求めて実現したもの。懇談には、会から石田宇則代表ほか4人(協会事務局1人)、医師会からは河合岳雄医師会長ほか8人が出席。要望書案に沿って意見が出され、「若い人が篠山にとどまらないことが看護師不足の大きな原因になっている。各医療機関で独自に院内保育所を設けるなど看護師確保に努めているが、特に運営が難しい病児保育については市で対応して欲しい」「高齢世帯や独居が増える中、交通手段がなく受診できない患者さんが増えている。市が運営するコミュニティバスは便数が少なく利用者も少ない。丹波市が実施しているオンデマンドタクシー(予約型乗合タクシー)のような予約制のものを導入して欲しい」などの意見が出された。会では意見を要望書に反映させ、近く酒井市長との懇談を要請する。